

第2回FD研修会報告書

2007. 9

FD部会

金沢学院短期大学

目次

| | | |
|-------------------------------|----------------|----|
| 開催に当たって | 副学長 吉田寛治 | 1 |
| I. 授業改善のための学生アンケート集計結果 | 食物栄養学科 松井良雄 | 2 |
| II. 課題：本学の授業方法をいかに改善するか | | |
| “ポストイット”を用いたグループ討論 | | 10 |
| 報告：グループA | ファシリテーター：國田千恵子 | 11 |
| 報告：グループB | ファシリテーター：河内久美子 | 14 |
| 報告：グループC | ファシリテーター：松井 良雄 | 16 |
| 報告：グループD | ファシリテーター：小林 淳一 | 19 |
| 総括 | FD部会 代表 岡島 厚 | 22 |
| 附 「“ポストイット”を用いたグループ討論」のスナップ写真 | | 25 |

開催にあたって

副学長 吉田寛治

大学設置基準の一部を改正する省令（H19年）が公布され、H20年4月1日から大学教員の研修が義務化されることになった。

本短大におけるFD的な活動については、その歴史は比較的長く、FDという言葉が定着する以前から、散発的ながら実行されていた。しかしながら、このたびの省令の施行をむかえるにあたり、従来の経験を生かしつつも全く新しい視点からFDをとらえ、全学的・組織的にこれに取り組んでいくことになった。

今回の研修会の主たるテーマは「 。授業改善のための学生アンケート」の集計結果の報告と、「 。本学の授業方法をいかに改善するか”ポストイット”を用いたグループ討論」である。

我々はFD活動の意義と重要性を十分に認識し、個々人の努力は勿論のことながら、組織としてこれをとらえ推進していかねばならない。今後も一步一步着実に、意欲的に「教育方法の改善」に、取り組んで行きたい。



吉田 寛治 副学長の挨拶

**・授業改善のための
学生アンケート
集計結果**

食物栄養学科 松井良雄

1. はじめに

授業改善のための学生アンケートについて、集計結果の見方と実施報告を行った。初めにアンケート処理の流れと、対象科目数（110科目）、アンケート総数（3027枚）を述べ、配付資料の種類を説明した。配布資料は、各教員に事前配付として、担当科目のマークシート用紙と集計結果。研修会当日の配布資料として、短大全科目の集計結果、生活デザイン学科の集計結果、食物栄養学科の集計結果、短大全体の科目数分布の計4枚である。以下、プレゼン内容に沿って報告する。



2. 短期大学全科目の集計結果

初めに、3段階に渡る集計処理を説明した。第1段階（図1）は授業科目情報と受講学生数の判断、第2段階（図2）はアンケート集計手順、第3段階（図3）は授業が理解できなかった理由と自由設定設問である。次に、グラフ表示した集計結果の見方（図4～図6）を説明した。そして、アンケート結果を以下の様に評価した。

(1) アンケート集計結果（図4）

評価が良い項目：先生の声、教科書や資料の活用、先生の熱意

評価が悪い項目：講義要項（シラバス）の活用、予習や復習などの実行

(2) 問15（授業が理解できなかった理由）（図5）

内容が難しかった 10%近く

授業そのものに興味がわからない 5%近く

教室が騒がしい、人数が多すぎる 悪い印象は無い

3. 短大全体と学科ごとの比較

短大全体と学科ごとの比較（図7）では、傾向はほとんど同じであった。両学科を比較すると、僅かに生活デザイン学科が好印象の回答を得ている。また、問15（授業が理解できなかった理由）では、食物栄養学科が僅かに授業の理解度が悪い結果が示された（図8）。その理由として、量が多かった、内容が難しかった、進み方が早かった、自分の基礎知識がなかった、自分が勉強不足だった、などの項目が掲げられた。

4. 短大全体の科目数分布

科目数分布の処理内容やグラフの見方（図9, 図10）を解説した。この図は、各教員が担当する科目が短大全科目のどこに位置しているかを示すグラフである。この図を用いて、他の科目との相互関連を理解して欲しい旨の説明を行った。

5. 授業改善に向けて

学生アンケートを利用した授業改善の方策案を提起した。

(1) 各教員がアンケート結果を自己分析

- ・集計結果の、良い点、悪い点を認識する
- ・学生の自由記述コメントを参考にする
- ・次学期の講義計画に反映する

(2) 学科会議などで結果報告

- ・各教員が担当科目の結果を報告
- ・講義連携、クラス分け、教室設備の改善などを検討

(3) FD 研修会などで改善策の検討

- ・履修状況の問題点を短大全体で共有
- ・グループ討論などで改善策を検討する

6. 質疑応答とまとめ

初めに、岡島FD 部会長より「授業改善のための学生アンケート」実施協力について、教職員各位に謝辞が述べられた。そして、アンケート集計の経緯が簡単に説明された。

次に、二階堂教授より「1年生と2年生を分離して入学年度が異なる学生の結果も知りたい。」との要望が寄せられた。またフリートキングでは、「一般教養と専門を分離した結果が見たい」との意見もあった。これに関して、希望する集計処理をFD 部会にお寄せ頂ければ、その都度、対応したいとの部会長より回答があった。

最後に、アンケートに関する意見をFD 部会までお寄せいただきたいこと、データ処理の問い合わせは松井委員までいただきたいこと、今後も学生アンケートにご協力いただきたいことの要望が部会長より述べられた。

なお研修会終了後に、カニンガム講師よりシラバスの必要性に関する問い合わせがあり、シラバスに授業内容を明示すること、シラバスの遵守が要求されることの回答を松井FD 委員より行った。

(松井良雄)

授業科目

科目番号 短大の全て
 科目名称 短大の全て
 曜日時限 全て
 担当教員 全て
 受講学生 全て
 読取枚数 3027

授業科目の情報

受講学生数に、ほぼ相当する
 (欠席学生は除く)

回答学生数 (合計数 ≤ 読取枚数)

| | ふ文 | 生活 | ビ文 | CV | AF | SI | 食業 | 合計数 |
|-----|----|----|-----|-----|-----|-----|------|------|
| 1年 | 37 | 0 | 121 | 136 | 159 | 153 | 1133 | 1739 |
| 2年 | 37 | 57 | 0 | 83 | 98 | 74 | 761 | 1110 |
| 他 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 25 | 25 |
| 合計数 | 74 | 57 | 121 | 219 | 257 | 227 | 1919 | 2874 |

学科名や学年を正しくマークしていない用紙があるので、合計数は読取枚数以下になる。

Fig. 1 短大全科目:処理(1)

アンケート集計結果

| | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | 合計点 | 有効票 | 平均点 |
|------|------|------|------|------|------|-------|------|------|
| 受講態度 | 13 | 142 | 1298 | 761 | 599 | 10230 | 2813 | 3.64 |
| 欠席回数 | 84 | 118 | 401 | 594 | 1687 | 12334 | 2884 | 4.28 |
| Q01 | 35 | 203 | 273 | 952 | 1561 | 12873 | 3024 | 4.26 |
| Q02 | 209 | 418 | 558 | 923 | 849 | 10656 | 2957 | 3.60 |
| Q03 | 133 | 298 | 894 | 936 | 649 | 10400 | 2910 | 3.57 |
| Q04 | 63 | 113 | 542 | 995 | 1082 | 11305 | 2795 | 4.04 |
| Q05 | 44 | 108 | 958 | 882 | 851 | 10917 | 2843 | 3.84 |
| Q06 | 121 | 338 | 937 | 868 | 729 | 10725 | 2993 | 3.58 |
| Q07 | 120 | 275 | 846 | 1170 | 603 | 10903 | 3014 | 3.62 |
| Q08 | 39 | 78 | 505 | 1227 | 1144 | 12338 | 2993 | 4.12 |
| Q09 | 139 | 425 | 853 | 913 | 656 | 10480 | 2986 | 3.51 |
| Q10 | 224 | 1166 | 1538 | | | 7170 | 2928 | 2.45 |
| Q11 | 45 | 235 | 496 | 491 | 246 | 5197 | 1513 | 3.43 |
| Q12 | 1461 | 235 | 813 | 254 | 162 | 6196 | 2925 | 2.12 |
| Q13 | 991 | 474 | 604 | 546 | 337 | 7620 | 2952 | 2.58 |
| Q14 | 176 | 278 | 708 | 1402 | 442 | 10674 | 3006 | 3.55 |
| Q16 | 78 | 240 | 725 | 1272 | 584 | 10741 | 2899 | 3.71 |

設問内容

学生自身が、自分の
 学生自身が、講義の
 問1. 先生の声は聞
 問2. 板書の文字・
 問3. ノートをとる
 問4. 教科書・参考
 問5. プリント・ビ
 問6. 授業中や授業
 問7. この授業から
 問8. 授業に対する
 問9. この授業を受
 問10. 授業妨害(遅
 問11. 授業妨害をす
 問12. あなたは授業
 問13. あなたは、授
 問14. あなたにとっ
 問16. 総合的に判断

設問
番号

選択肢①～⑤の票数
 ポイント×票数の合計
 未記入や複数記入は除く

$$\text{平均点} = \frac{\text{合計点}}{\text{有効票}}$$

Fig. 2 短大全科目:処理(2)

問15 授業が理解できなかった理由
(問14で①②の場合、複数回答可)

| | 投票数 | 割合% |
|--------|-----|-----|
| Q15-01 | 143 | 4.7 |
| Q15-02 | 29 | 1.0 |
| Q15-03 | 134 | 4.4 |
| Q15-04 | 253 | 8.4 |
| Q15-05 | 159 | 5.3 |
| Q15-06 | 162 | 5.4 |
| Q15-07 | 134 | 4.4 |
| Q15-08 | 46 | 1.5 |
| Q15-09 | 18 | 0.6 |
| Q15-10 | 16 | 0.5 |

問14 授業は理解できましたか

- ①ほとんど理解できなかった
- ②少ししか理解できなかった

理由

1. 授業内容そのものに興味がわかなかった。
2. 将来役に立つとは思えなかったので、興味がわかなかった。
3. 量が多かった。
4. 内容が難しかった。
5. 進み方がはやかった。
6. 自分の基礎知識がなかった。
7. 自分が勉強不足だった。
8. 教室が騒がしくて集中できなかった。
9. 人数が多すぎて集中できなかった。
10. その他(マークシート紙の裏面)。

割合(%)は、受講学生数に対する投票数

担当教員自由設定設問

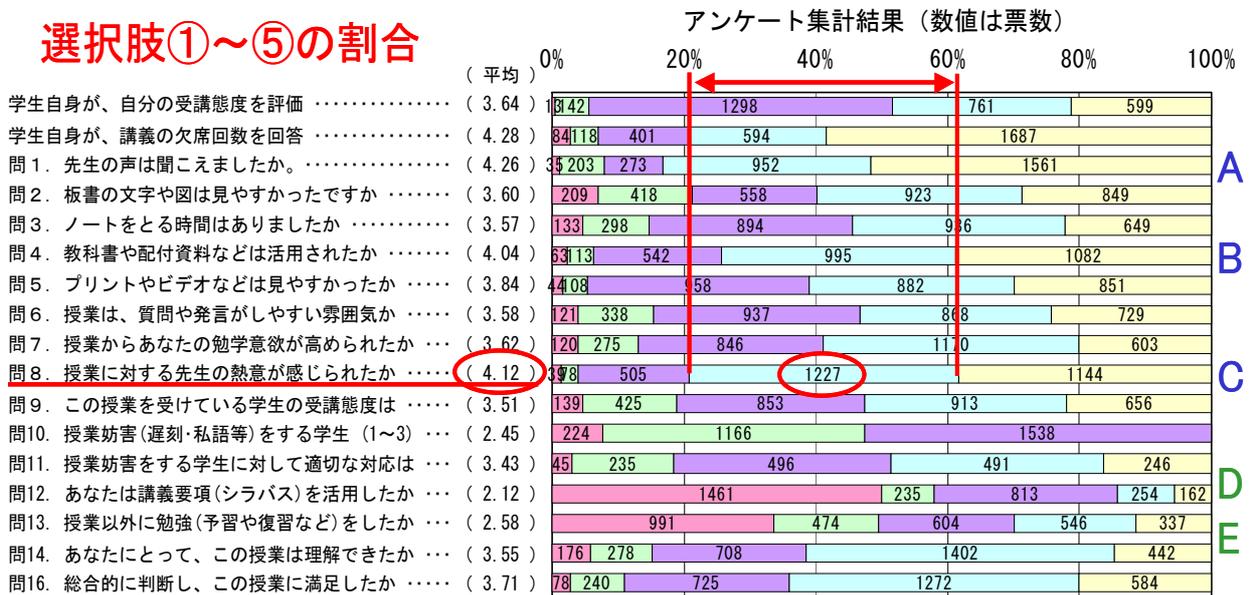
| | ①投票 | ②投票 | ③投票 | ④投票 | ⑤投票 | ①割合 | ②割合 | ③割合 | ④割合 | ⑤割合 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| Q17 | 13 | 33 | 89 | 187 | 108 | 0.4 | 1.1 | 2.9 | 6.2 | 3.6 |
| Q18 | 64 | 72 | 58 | 93 | 37 | 2.1 | 2.4 | 1.9 | 3.1 | 1.2 |
| Q19 | 14 | 44 | 117 | 70 | 35 | 0.5 | 1.5 | 3.9 | 2.3 | 1.2 |
| Q20 | 17 | 26 | 51 | 46 | 107 | 0.6 | 0.9 | 1.7 | 1.5 | 3.5 |

投票数

受講学生数に対する投票数

Fig.3 短大全科目:処理(3)

選択肢①~⑤の割合



(例)問8 先生の熱意 → ④選択 → 1227票

→20%~60%=約40%の学生 → 平均値4.12

右側の黄色や水色は好印象

評価(良) A:先生の声 B:教科書や資料の活用 C:先生の熱意

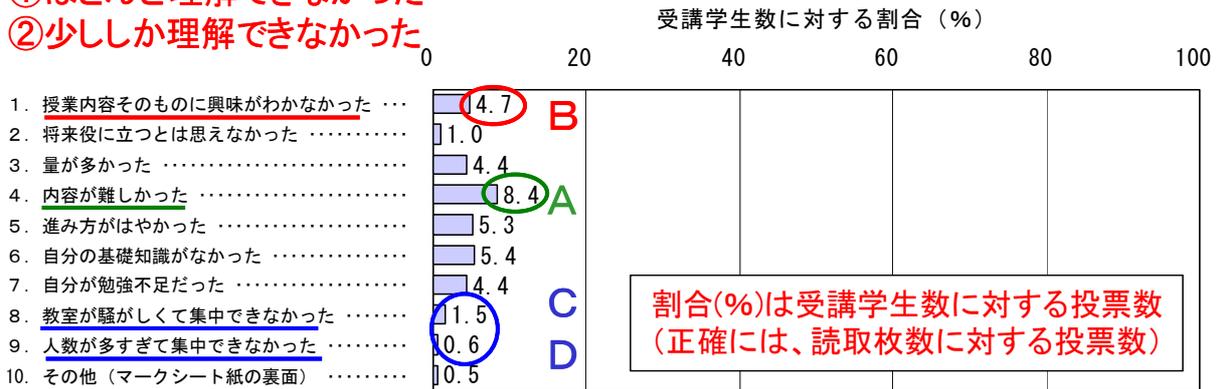
評価(悪) D:講義要項(シラバス)の活用 E:予習や復習など

Fig.4 短大:アンケート集計結果

問14 授業は理解できましたか

- ①ほとんど理解できなかった
- ②少ししか理解できなかった

問15. 授業が理解できなかった理由 (問14で①②の場合、複数回答可)

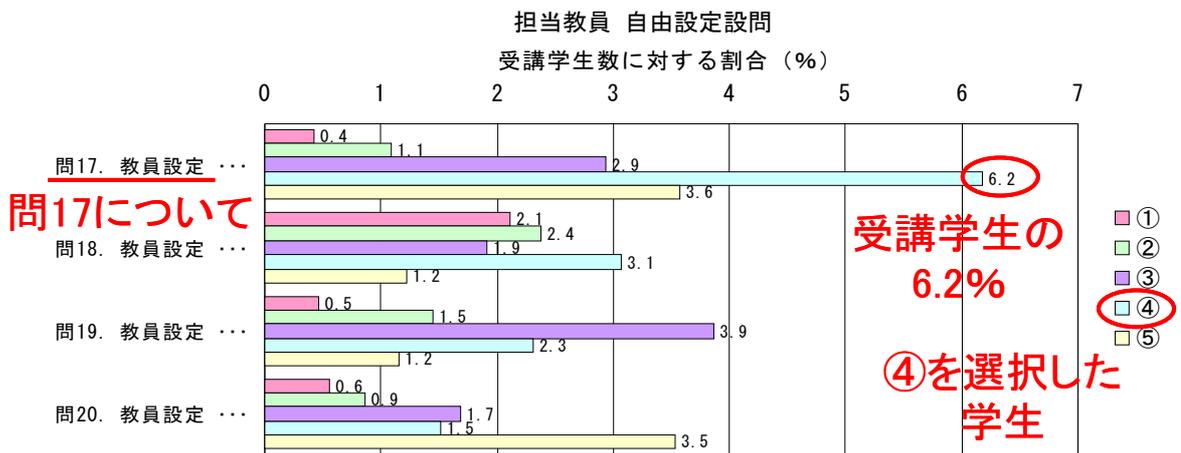


A: 内容が難しかった → 10%近く

B: 授業そのものに興味がわかない → 5%近く

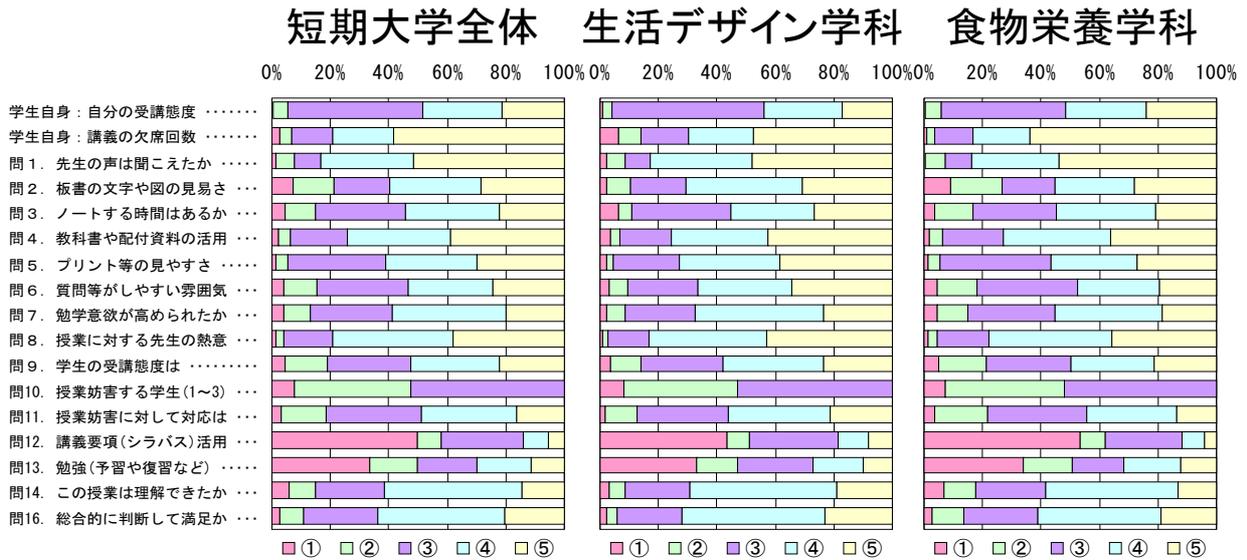
C: 教室が騒がしい、D: 人数が多すぎる → 悪い印象は無い

Fig.5 短大: 問15(授業が理解できなかった理由)



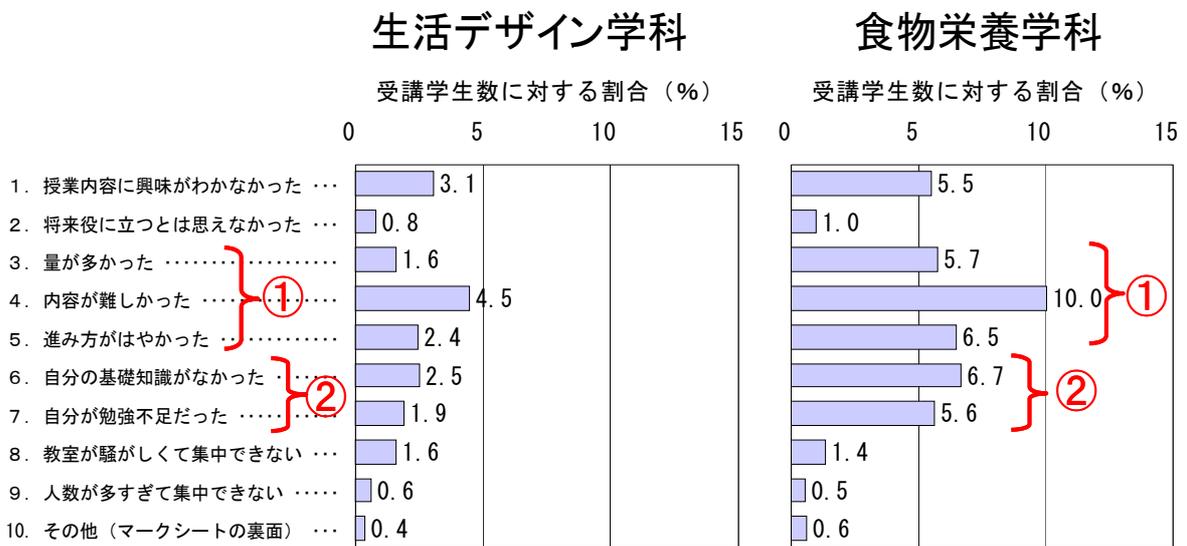
自由設定設問を実施された方は、
集計結果を参照して下さい。

Fig.6 短大(2頁): 自由設定設問



短大全体と学科ごとの比較では、傾向はほとんど同じ。
 両学科を比較すると、僅かに生活デザイン学科が好印象の回答

Fig. 7 短大全体と学科ごとの比較



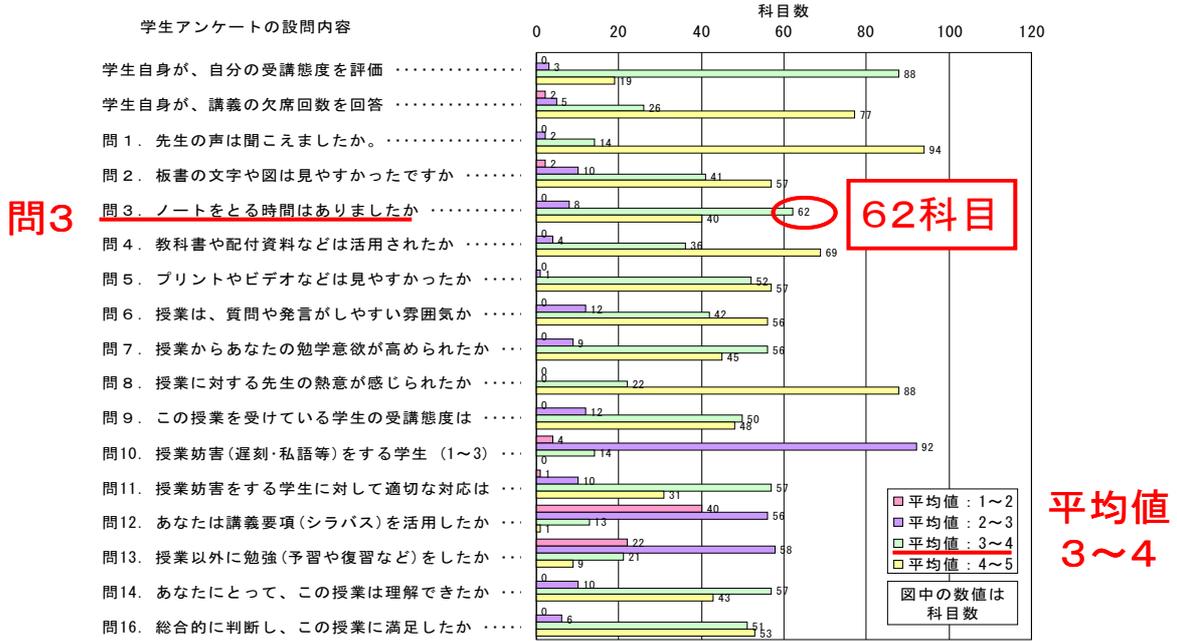
食物栄養学科が僅かに授業の理解度が悪い

① 量が多かった、内容が難しかった、進み方が早かった

② 自分の基礎知識がなかった、自分が勉強不足だった

Fig 8 両学科の比較: 問15(授業が理解できなかった理由)

「設問（問1～問16）」ごとの「平均値（1～5）」に対する科目数の分布 **短大全体で110科目**



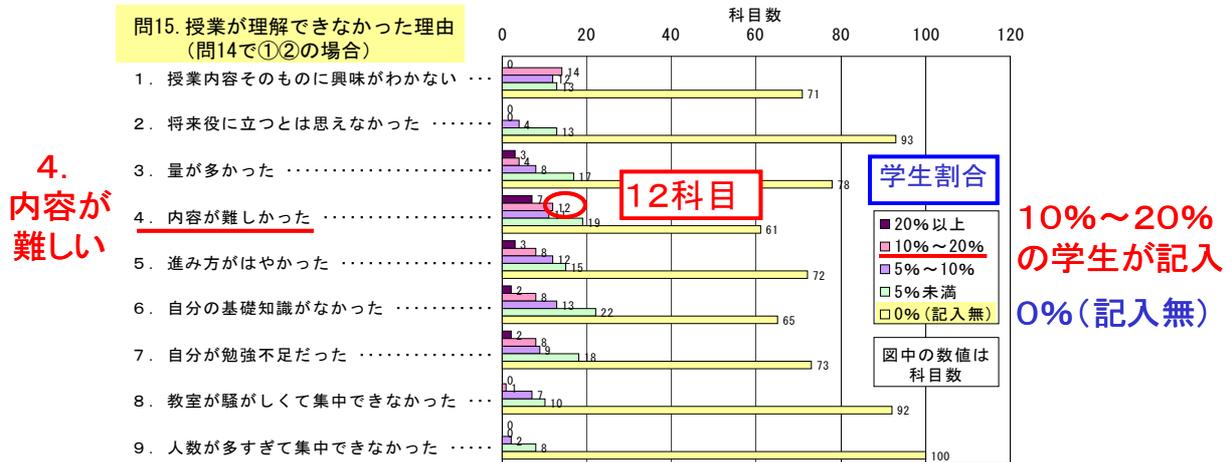
(例)問3 ノートをとる時間 → 平均値3～4 → 62科目

Fig. 9 科目数分布:問1～問16

「授業が理解できなかった理由」ごとの「記入した学生割合」に対する科目数の分布 **短大全体**

参考: 「記入した学生割合」は、受講学生数に対する記入した学生の割合(%)

110科目



(例)4. 内容が難しい → 10%～20%の学生が記入 → 12科目

各項目が「授業が理解できなかった理由」にはならない 0%(記入無)

Fig. 10 科目数分布:問15(授業が理解できなかった理由)

**・ 課題：本学の授業方法を
いかに改善するか
“ポストイット”を用いた
グループ討論**

全教職員



ポストイットを用いたグループ討論の手順を説明する國田FD委員

報告：グループA

1. 参加者

ファシリテーター：國田千恵子

メンバー：野村孝弘、藏角利幸、R.W. カニンガム、山瀬泰吾、白山ひろみ、種井由佳
(順不同)

2. 討論の概要

教員への課題：

- ① 学生の興味・関心をいかに探るか。
- ② 学生を惹きつける授業が難しい。

学力の差が大きい：

- ① 基礎学力がない。
- ② 講義内容が多い。
- ③ レベルの差が激しい。

学ぼうとしない：

- ① 自分で考えることをしない。自分自身で考えを出さない。
- ② 質問をしないで、分からないことをそのままにしている。
- ③ 自分で調べようとしていない。
- ④ テキストを読まずに、すぐ人に聞く。

基本的な受講態度に欠ける：

- ① ノートを取らない。
- ② 教科書を開かない。
- ③ 配付したプリントを持ってこない。
- ④ 授業が始まってから、教科書を取りに行く。
- ⑤ 時間を守らない。
- ⑥ 決まりを守らない。
- ⑦ 教室への出入りが多い。
- ⑧ ノートを取っているときや人の話を聞いているときの姿勢が悪い。

私語・眠る：

- ① 私語が多い。
- ② おしゃべりを始めると止まらない。
- ③ 自分たちの私語に周囲の者を誘ってしまう。
- ④ 人の話を聞かない。

議論内容(2)：改善策について

受講態度の徹底：

- ① 1年生に対しては、プレミナールを使って(30分間)受講態度を徹底させる。
- ② 入学時に、短大の方針や人材育成について話し、徹底させる。
- ③ 少人数の学生を先生方に割り当て、基本的マナーを指導。
- ④ 学生の評価が常にチェックできるようにし、緊張感を持たせる。
- ⑤ 受講態度の悪い学生・問題のある学生は、保護者等に報告する。
- ⑥ 単位をもらうための仕組みを分からせるように指導する。
- ⑦ 「単位」というものは、受講態度と試験結果の二つから成り立っていることを分からせる。

ポイント制とペナルティ制の導入：

- ①出席していても、(例えば、注意5回)寝ていたら単位を出さない。
- ②授業用プリントを(例えば、3回以上)忘れたら単位を出さない。
- ③三分の一欠席した者には、単位を出さないことを徹底する。
- ④態度の悪い学生を公表する。(学籍番号)
- ⑤ポイント・システムを作る。
- ⑥イエローカード・システムを作る。

その他：

- ①講義は座席指定で受けさせる。
- ②30分以上遅刻した者は、入室させない。
- ③携帯電話の電源を切らせ、カバンの中に入れることを徹底させる。
- ④講義の要約を最後に話すようにする。

3. 結論

< 授業改善にあたっての問題点 >

1. 基本的な受講態度に欠ける

2. 学力の差が大きい

3. 私語・眠る

4. 学習意欲がない

< 解決策 >

受講態度・システムの徹底

ポイント制・ペナルティ制の導入

授業改善にあたっての問題点をまとめると、上記1から4の項目となるが、議論の末、Aグループでは、四つの問題点は個別にあるのではなく、相互に関連しあい、負の相乗効果をもたらしているとの考えに到った。

つまり、学力の差の大きいことが、授業を理解できない学生を生み出す。授業についていけなくなることによって、学習意欲を失い、私語や居眠りをもたらす。授業の難易度にかかわらず、学習意欲の低いことも、私語や居眠りの原因と考えられる。また、基本的な学習態度に欠けていることが、私語や居眠りに結びつき、それによって学力の差が大きくなるとも考えられた。

Aグループでは、四つの問題点が相互に関連しあっているならば、問題の一つが改善されることで、他の三つにも影響が出るだろうととらえた。そして、四つの中でも一番改善しやすいと思われる、上記1「基本的な受講態度に欠ける」について話し合いを行った。

議論の結果、改善策としては、次の2点が挙げられた。一つは、受講態度と単位認定のためのシステムを徹底させること。入学時等の早い時期に指導し、徹底させることが重要との意見が多かった。もう一つは、ポイント制と

ペナルティ制を導入し、受講態度の向上を図ることである。ポイント制とは、授業に対し意欲的に参加した学生に、報酬（ポイント）を与え、成績評価に反映させる方法である。ペナルティ制とは、授業に悪影響を及ぼすような言動に対し、罰（点数を引くなど）を与え、成績評価に反映させていくやり方である。いずれにせよ、授業形態や内容によっては、実施が困難な場合もあるが、ポイント制・ペナルティ制を取り入れる際には、授業の始めにシステムの説明を行い、学生に理解させることが大切である。そして、どちらの場合も、学生が納得できる一定の客観的基準を提示しておくことが重要であると思われる。

最後に、今回のグループ議論を通し、当然のことではあるが、本学教職員の学生に対する真摯な態度と教育への熱意を感じた。さらには、教職員一人ひとりが其々に模索し、学生の学力と人間性の向上のため、力を注いできたことが分かった。

今後の学生指導並びに授業については、各教職員による改善努力はもちろんのことだが、教職員間の情報交換を始めとする、協働による改善の必要性を感じた。

(國田千恵子)

報告：グループB

1. 参加者

ファシリテーター：河内 久美子

メンバー：笠森 勇、二階堂 修、小野 澄江、山岸 和子

2. 討論の概要

Bグループで出たコメントの全容を 図B-1 Bグループ親和図に示す。



図B-1 Bグループ親和図

2.1：授業を行う上での問題点について

グループBで出た問題点は、大きく二つに集約された。

敬語や服装の乱れに対する「しつけの必要性」

私語や他事、遅刻、学力不足といった「学生の受講姿勢の問題点」

では、学生が授業に集中しない(できない)以下の要因があげられた。

- ・ 授業方法(板書や字の大きさ)の不適切さ
- ・ 遅刻および遅刻を非とする認識の欠如
- ・ 希薄な勉学意欲、知的好奇心
- ・ 漢字やノートのとり方を知らないといった基礎力不足
- ・ 集中力が続かない

その結果として、

授業中に「私語が多い」「化粧をする」「携帯電話使用」「他授業の課題をする」「寝る」など、授業に集中しない問題行動が指摘された。

2.2：改善策について

指摘された学生の行動に対し、Bグループでは

- ・ ほめおだてて興味を惹く
- ・ 授業の受け方やノートのとり方をこまめに教える
- ・ 遅刻や授業への集中にかける学生に対し、罰金あるいは減点(イエローカード)制を導入する
- ・ 学力別クラスの編成
- ・ 座席を離して座らせる

といった対策アイデアが出されたが、中でもとりあえず集中力を持続させる対策が先決として議論され、次の2提案に至った。

3. 結論

本学学生には90分間の集中は難しいと思われるため、授業を30分、あるいは45分クールで組み立て、作業メニューを組み込む。

受講人数が多いクラスは全体に目が届きにくく問題行動が目立つ傾向にある。クラス単位を30名前後にとどめたい。(教員不足の現状では困難か)

(河内久美子)

報告：グループC

1. 参加者

ファシリテーター：松井良雄

メンバー：岡島厚、平木孝志、吉田啓子、南友美、宮田亮

2. 討論の概要

2.1 問題点の提起とカテゴライズ

授業を行う上での問題点を提起し、以下の4項目にカテゴライズした。

(1) 授業態度

- ・遅刻が多い、忘れ物が多い、授業中に寝る
- ・教員の話を受けない、授業中の私語が多い
- ・与えた資料を読まない、授業中にメールをする、飲食やガムが多い
- ・辞書を買わない(勉強にお金を使わない)

(2) 授業環境

- ・実習の際に人数が多すぎる場合(調理実習など)がある
- ・教室と学生数の関係に問題がある

(3) 礼節

- ・礼儀をわきまえていない
- ・服装が悪い
- ・学生のドタキャンの連絡が無い

(4) 学力の問題

- ・学生の学力が不揃いで能力差がある、学習意欲に温度差がある
- ・入学者の学力低下、大学教育を受ける資格の無い学生がいる、中学に戻すべき
- ・同じことの繰り返しが多い、一般教養の到達点の設定が必要
- ・提出物の期限を守らない学生がいる、レポートなどの提出日時を守らない

以上のように提起された種々の問題点では、(1)授業態度、(4)学力の問題、に対する意見が多く出された。一方、普段の学生生活における礼儀や道徳の遵守に関わる(3)礼節についても強い意見が提起された。これらを総じて意見交換した結果、勉学改善に向けて最初に着手すべき課題は「礼節」であるとの統一見解が得られた。

2.2 「礼節」解決策の提案とグルーピング

授業改善の根幹に関わる「礼節」に対して、解決策を提案し7項目にグルーピングした。

(1) 教職員の見本

- ・教職員が見本的な態度を見せる
- ・教職員が自ら行動する(挨拶、言葉使い、冷静な態度)
- ・キチンとした対応をする、教職員が襟を正す
- ・教員は講義には必ず始業時間より前に行く、実習科目で教員が見本を見せる

(2) 学生に注意する

- ・服装など気付いた事をその場で本人に率直に注意する

- ・教室や学内での飲食や地べた座りを禁止する
 - ・教職員による注意が必要、学生が納得できるように叱る
- (3) フレンドリーな関係
- ・教職員と学生とのフレンドリーな関係を作る、そして礼節を指導する
 - ・相手に関心を持つ、礼儀ある会話をする(教職員や学友に対して)
 - ・授業態度の悪い学生の原因究明できる話し合いの場を設ける
- (4) 服装
- ・服の区別をしっかりと教える
 - ・定時にスーツを着る
- (5) 挨拶の励行
- ・学校の中での言葉使いを指導する
 - ・教職員から学生への声かけ、挨拶の徹底
 - ・授業の開始、終了で挨拶(1日1回は礼儀)
 - ・授業始めの「起立」「礼」
- (6) 学生の話し合いや体験談
- ・少人数の学生、班を作り、個別生活指導を教員がする
 - ・学生による学生マナー指導
 - ・実社会での体験談を話す
 - ・プレゼミなどで接待のお話を聞く機会を与える(スチュワーデス、秘書など)
- (7) その他
- ・教会のように、Healing music(癒し音楽)をかける(パッハ)
 - ・礼節を遵守しない場合はペナルティーを付ける
 - ・アイスクリームの販売禁止

2.3 「礼節」改善に向けた具体的行動計画

前節で提案された解決策をまとめて、短期大学として実現できる行動計画(A)~(D)を立案した。具体的には、(1)教職員(2)注意(4)服装から(A)教職員の見本を、(3)フレンドリー(5)挨拶(6)学生の話し合いから(B)フレッシュマンキャンプ計画を、(2)注意(4)服装(5)挨拶から(C)体験合宿を、さらに、色々な意見交換から(D)高校との連携を取り上げた。

- (A) 普段から教職員が見本を見せ、態度が好ましくない学生を注意する。
- (B) フレッシュマンキャンプの活用や拡大。1年生と2年生の合同縦割り合宿を実施する。
- (C) 体験合宿の実施。野田山の大乗寺に入れる。自衛隊、永平寺、禅寺なども検討する。
- (D) 高校と連携して礼節を教育する。そして東高校生が短大生の見本となることも期待する。

3. 結論

上記(A)~(D)の具体的行動計画では、(A)は普段から教職員が心がけるように呼びかけた。

(B)(C)のフレッシュマンキャンプ計画や体験合宿は、学生委員会・教務委員会がFD部会と連絡を取り合うことを要望した。また将来的には(D)高校との連携も推進することを提案した

さらに、これらの「礼節」改善に向けた具体的行動計画について、「ワーキンググループ」を設立し、早急な実施を目指すこととした。

(松井良雄)

報告：グループD

1．参加者

ファシリテーター：小林淳一

メンバー：川村昭子、吉田寛治、遠田敬、田畑圭介、清水里美、森田由香

2．討論の概要

2.1 個人作業による問題点の提起ならびに問題点のカテゴライズ

参加者から提案された問題点を関連性・類似性に基づいて討論し、以下の4項目に分類してそれぞれタイトルを付けた。

タイトル：マナー

- ・ 家庭のシツケがなされていない
- ・ マナーが悪い(行儀悪い)×2件
- ・ 大学のルールは?どの程度
- ・ 授業中の無題退出
- ・ 私語が多い×3件
- ・ 遅刻の対処
- ・ 授業時限、クラスによっては私語が多い
- ・ 言葉遣い
- ・ 服装

タイトル：意欲喚起

- ・ 大学へ入学する動機が弱い
- ・ 資格を積極的に取ろうとする意欲が乏しい
- ・ 自分自身のことだという自覚が少し不足している
- ・ 少し先生や親に頼りすぎ
- ・ 特に掲示物による連絡が伝わりにくい
- ・ 寝ている者が居る
- ・ 授業時限、クラスによっては寝ている学生が多い

タイトル：学力向上

- ・ 学生の学力格差が著しい
- ・ 最低限の作業ができない学生がいる

タイトル：東高校卒業生

- ・ 東高校からの入学者が多い(気のゆるみ)

これら4項目の改善課題を、重要度・緊急性に基づいてさらに討論した。討論序盤では、「タイトル：マナー」是最頻出であるがあくまで家庭教育の範疇であり、高等教育機関として検討する課題では無いとする認識が強く、基礎学力の向上や各科目の学習意欲の喚起について検討すべきであるとする方向性が指摘された。

しかしながら、本学学生の学外におけるマナーが悪く、短期大学そのものの社会的評価が下がっ

ており、この点こそが緊急性の高い懸案であるという意見が挙がった。すなわち、生活デザイン学科のインターンシップ、食物栄養学科の栄養士校外実習や教育実習、プレゼミナールの企業見学など、学外で学ぶ機会が近年増加する本学カリキュラムにおいて、マナーの悪さや学習意欲の希薄さによる学外担当者への失礼な態度などを、早急に改善すべきであるという指摘である。

その結果、「タイトル：マナー」と「タイトル：意欲喚起」を統合した上位課題「行儀向上」を設定し、意欲を持って礼儀正しく学べる学生を育てるための方略を検討することを、本グループの一番の課題として決定した。

なお、全ての教育機関の普遍的な課題である「タイトル：学力向上」と、付属学校や一貫教育校における課題の「タイトル：東高校卒業生」は、「行儀向上」程緊急性を要しないとしても、いずれも授業方法の改善における重要な検討事項である。したがってこれら2項目の優先順位は付けないことにした。

2.2 改善したい課題についての対策

次に本グループの課題「行儀向上」に関する対策を、個々に検討してポストイットに記入し、アイデアを次の4項目にグルーピングした。

- 1) 指導の時期と方法について
 - ・ 気が付いたとき、その都度注意
 - ・ その都度チェックする
 - ・ 授業前必ずチェックする
 - ・ マナーチェックをする時間を設ける
 - ・ チェック表を作成する
 - ・ 特に実習実施前には気を付けさせる 習慣にさせる
 - ・ 高校ほどでないにしても基本的な校則(ルール)
 - ・ 入試面接時の約束
 - ・ フレッシュマンキャンプ
 - ・ ゼロトレランスポリシーに基づく事前契約
 - ・ 具体的に機会があるときに言っていく
 - ・ 常勤・非常勤関係ない統一したチェック項目作成
- 2) 授業中の具体的工夫
 - ・ 座席を指定する(可能であれば横を空ける)
 - ・ 毎時間の終了時に課題を提出させる
 - ・ 5分を過ぎたる出席扱いにしない(受講してもいいが欠席扱いにする)
- 3) 担任制の活用
 - ・ 毎日ホームルームの時間 「担任」の授業として一コマに数える
 - ・ メール通信(学生・保護者)
 - ・ 三者面談
 - ・ 学外に出る直前に担任から個別に指導する
 - ・ 担任会議
 - ・ 授業外の時間、朝・昼・夕方に担任の先生などによるガイダンス的なものを設ける
- 4) 協働した指導体制
 - ・ 授業の工夫を皆で研修する

- ・ 意欲を引き出す工夫 「研究授業」
- ・ 保護者も参加できる公開授業
- ・ 保護者との懇親会の機会を作る

3. 結論

対策案が極めて多岐にわたったため、グループ作業中に意見の相違や議論が脱線する場面もみられた。ファシリテーターの統括方法に問題があったと思われるが、マナー改善そのものに焦点化し、授業中を問わず全学的な視点から意見を挙げる参加者と、各授業を通してマナー改善をするための方略を挙げる参加者の間に、微妙な見解の齟齬が生じたという印象がある。この点の認識のすり合わせに時間がかかったが、本グループは、上記4項目の対策案を基礎とした具体的改善案と行動計画を検討し、次の結論に至った。

マナーチェックリストの作成

全ての教職員（非常勤講師を含む）が、共通認識を持って学生の行儀向上を図るために、本学独自のマナーチェックリストを作成する。チェックに関しては、ゼロトレランス・ポリシーに基づき徹底を図る（チェック内容と違反学生への罰則を明確にする）。また、授業中だけでなく、実習実施前に特別時間を設けて実施したり、日々定期的実施するなど、本学カリキュラム内の習慣として意識させるように配慮する。

担任制度の改革

「授業改善」から飛躍した提案ではあるが、マナー指導は各授業のみで解決できる性格の課題ではない。したがって、担任教員がマナーチェックリストに基づく定期的な学生指導に当たることが肝要であり、ホームルームを設定することも必要である。また、これまで実施されてなかった「担任会議」を導入し、綿密で定期的な意見交換を図るようにする。

その一方で、多くの学生を抱える食物栄養学科の担任教員、2学年を同時に担当するデザインコースの担任教員など、それぞれ特殊な事情を考慮すると実現には条件整備が必要である。なお、単位とならないガイダンスの時間を定期的設けることによる学生の反応、担任教員の負担増大などに関しては、議論時間内で具体的な解決を導出できなかった。

教職員の協働・保護者も巻き込む授業研究会

授業の工夫を皆で研修するため、研究授業を実施する。その際には保護者にも公開できるようにし、研修会とともに保護者との懇親会の機会を作る。また、大々的に研修会を設けないまでも、教員間で互いの授業を参観して授業改善のヒントを出し合い、共有するように努める。

初の試みのグループ議論は、議題に対して十分な検討をするには時間が不足しており、結論が出尽くすまでには至らなかった。しかしながら、本グループはバラエティに富んだ教職員構成であったために、多岐にわたる角度から活発な議論がなされた。したがって、情報の共有化ならびに、教職員が一丸となって授業改善を検討するきっかけになったという意味では意義深く、今後のさらなる発展が期待されると考える。

学生の学外評判を提供した参加者の意見に端を発した今回の議論は、短期大学内での一般的な改善方略を検討するだけでなく、高等学校の授業改善案を参照にするなどして、具体的な行動計画を部分的にはあるが指摘できたと言える。

(小林淳一)

総括

第2回短大FD研修会は、第一部、授業改善のための学生アンケート集計結果の報告（報告者：食物栄養学科、松井良雄）と第二部、課題：本学の授業方法をいかに改善するか“ポストイット”を用いたグループ討論（司会者：國田千恵子）を行った。

まず、第一部では、松井FD委員によって授業改善のための学生アンケート集計結果の報告がなされ、主として短大全体の授業評価結果についての報告が約30分なされた。主な評価結果のうち学生の評価が比較的高い項目は、教員の声、教科書や資料の活用、そして教員の授業に対する熱意などであり、反対に、評価が悪い項目は、学生自身の講義要項（シラバス）の活用や予習や復習などの実行が不十分という学生の自己批判であった。さらに、授業が理解できなかった理由（アンケート問15）としては、内容が難しかった（約10%）、授業そのものに興味がわからない（約5%）、教室が騒がしい、人数が多すぎる等の結果であった。教員の授業管理も重要である。

次に、学生のアンケート評価結果も踏まえ、第二部、課題：本学の授業方法をいかに改善するか“ポストイット”を用いて4グループに分かれてのグループ形式による討論会を、國田FD委員提案による初めての試みとして約2時間にわたり実施した。

本課題は、日頃から教職員が授業をしているとき、常に考え、工夫しつつ苦闘している課題である。従って、活発な意見が出されたが、十分な検討をするには時間が不足しており、多くのグループにおいて結論が出尽くすまでには至らなかった。しかし、このようなグループ討論は、バラエティに富む構成員から多岐にわたる角度から活発な議論がなされ、有益かつ貴重な経験であった。

以下、A、B、C、Dの各グループの主な結論を述べる。

Aグループ：

2つの改善策が提案された。

1. 受講態度と単位認定のためのシステムについての学生への徹底熟知。
入学時等の早い時期に指導し、徹底させる機会を設ける。

2. ポイント制とペナルティ制を導入。

ポイント制は、授業に対し意欲的に参加した学生に、報酬（ポイント）を与え、成績評価に反映させる方法である。ペナルティ制は、授業に悪影響を及ぼすような言動に対し、罰（点数を引くなど）を与え、成績評価に反映させていくやり方である。いずれにせよ、授業形態や内容によっては、実施が困難な場合もあるが、ポイント制・ペナルティ制を取り入れる際には、授業の始めにシステムの説明を行い、学生に理解させることが大切である。そして、どちらの場合も、学生が納得できる一定の客観的基準を提示しておくことが重要である。

Bグループ：

2つの改善策が提案された。

1. 授業時間の見直し。

本学学生には90分間の集中は難しいと思われるため、授業を30分、あるいは45分クールで組み立て、作業メニューを組み込む。

2 受講人数の是正。

受講人数が多いクラスは全体に目が届きにくく問題行動が目立つ傾向にある。

教員不足の現状では困難かも知れないが、クラス単位を30名前後が理想である。

Cグループ：

特に、「礼節」改善に向けた具体的な行動計画が提案された。

1 フレッシュマンキャンプの活用と拡大化。

1年生と2年生の合同縦割り合宿の実施を提案する。

2 体験合宿の実施。

野田山の大乗寺に体験合宿を実施する。自衛隊、永平寺なども提案された。具体的な実施のための「ワーキンググループ」の設置を提案する。

3 高校と連携した「礼節教育」の実施。

例えば、同じ教育理念を共有する東高校の教員と連携した「礼節教育」の具体的な行動計画を考える。

Dグループ：

課題「行儀向上」に関する対策を検討した。その結果は、下記の通りである。

1 マナーチェックリストの作成。

全ての教職員が、共通認識を持って学生の行儀向上を図るために、本学独自のマナーチェックリストを作成する。チェックに関しては、ゼロトランス・ポリシーに基づき徹底を図る（チェック内容と違反学生への罰則を明確にする）。また、授業中だけでなく、実習実施前に特別時間を設けて実施したり、日々定期的実施するなど、本学カリキュラム内の習慣として意識させる。

2 担任制度の改革。

「授業改善」から飛躍した提案ではあるが、マナー指導は各授業のみで解決できる性格の課題ではない。したがって、担任教員がマナー・チェックリストに基づく定期的な学生指導に当たることが肝要であり、ホームルームを設定することも必要である。また、これまで実施されてなかった「担任会議」を導入し、綿密で定期的な意見交換を図るようにする。

3 教職員の協働・保護者も巻き込む授業研究会の実施。

授業の工夫を皆で研修するため、研究授業を実施する。その際には保護者にも公開できるようにし、研修会とともに保護者との懇親会の機会を作る。また、大々的に研修会を設けないまでも、教員間で互いの授業を参観して授業改善のヒントを出し合い、共有するように努める。さらに、高等学校の授業改善案を参考にするなど、具体的な行動計画を立てる。

授業アンケート結果や本研修会のグループ議論を通し、本学教職員の学生に対する教育への真摯な態度と熱意が高く評価される。そして、教職員一人ひとりが模索し悩み、苦しみながら、学生の学力の向上、人格形成のために全力を注いでいるのが現状である。しかし、このままでは不

充分であることは事実であり、今回の研修会が、本学教職員にとって情報を共有化して一丸となって授業改善に向けて協働する契機となり、ここに挙げられた数々の具体的な改善行動を、可能なことから順次、実行に移していきたい。タイム・スケジュールとしては、FD部会で議論した後、教授会に提案して実施することになる。

今後の学生指導並びに授業において各教職員による個人的改善努力は言うまでもないが、教職員間の情報交換を始めとする協働によるFD活動が一層重要である。

(岡島 厚)

附 「“ポストイット”を用いたグループ討論」 のスナップ写真



附 「“ポストイット”を用いたグループ討論」 のスナップ写真

